

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様がその人らしく暮らし続けられることを目指し、<「個」の尊重主義:安心/信頼/快適>を理念に掲げている。		「ふれあい」を支える 地域の人とふれあう 記憶の中に残る町、山、川とふれあう
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの見やすい所に明示している。		「一日一声」「一日一回」等の目標を取り組み支援を具体化していく。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット等に理念を折り込み入所契約時に説明し理解してもらえよう取り組んでいる。		多様な展開を具体的に取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日には、入居者様と共に外で外気浴を行ったり、買い物に出たり、気軽に立ち寄ってもらえるよう声をしている。		隣近所の人なら誰でも、ホームを知っていますよと言ってもらえるような具体的、積極的な取り組みを行なう。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアや地区の行事にも少ずつ参加させてもらっている。		祭り等施設行事など自治会に声をかけ参加していただけるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない。		地域の高齢者の力になれる事がないかグループホームの皆さんと地域の方が一緒にできることがないか話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘を受けた部分は、運営者、管理者、職員と話し合い改善に取り組んでいる。		自己評価表をグループホーム内に置き、職員や外部から見えた方々にも自由に読んでもらえるよう取り組みをする。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の状況等を報告し話し合っている。		話し合いを通じ、参加者からのご意見をサービス向上に具体的に活かしていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と行き来しており、入居者を通し面会に来られるなどしている。また、よりよいサービスが行えるよう相談にのっていただいている。		市と近所に相談、支援など協議している。、
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利は擁護事業を活用している。		地域権利は擁護事業や成年後見制度について、研修の機会を持ち理解を深めようになりたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を持っており、職員がお互いに注意するようにしている。また、入浴や更衣時に異常がないか注意してみる。高齢者虐待防止関連法について研修を行い、サービスの中で虐待にあたる事はないか、カンファレスにおいて話し合い、防止に努めている。		今後も継続して研修を行い、自らの言動が虐待にあたらないか見直す機会を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際に、利用者や家族等に疑問点を尋ね、十分な説明を行なっている。</p>		<p>契約寺以後に起こる不安、疑問点に関する説明の取り組みを具体的に示し取り組んでいく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情は常に表せる環境をつくっている。それらを運営に反映できている。</p>		<p>運営推進懇談会をもっと活発させ、自由な意見交換の場とする。運営の基盤としていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のおたよりに利用者様の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を報告している。また面接時や必要に応じて電話を行なう。</p>		<p>目の便りに変化をつけていく都度、家族等の望む方向へしていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見、不満、苦情を聞いてそれについて対応している。運営推進会議も行なっている。</p>		<p>多くの参加が得られるよう取り組みに力を入れる。多くの意見の中から最良な運営にと結びつけていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や日常的にも職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。</p>		<p>運営者と職員に関する意見交換の機会を多くする。管理者を職員に関する会の中への参入。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		<p>家族の理解も十分得られ協力的に行なわれているが、もっと欲張っていいものがあれば取り組んでいく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者様にダメージがないよう配慮している。</p>		<p>職員の意識、認識を高める、離職(離職に伴う異動)を最小限に抑える為、人材育成に努める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内にて、認知症の理解を深める研修を行ないスタッフの質の向上に努めている。		内外の研修を受ける機会の確保。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク、全国組織への参入。		近隣に施設があるので今後、交流できるように検討していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の取り方を検討して工夫していく予定です。		人材の育成、確保が最大の要因である。ゆとり、サービスの質、向上心などその中から生まれるよう人の環境を整えていく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの悩みやケアで困っている事を聞いたりして頑張れるように励ましたりしている。		努力や実績が評価される工夫を具体化し、個々人の向上に結びつけていく。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員が本人自身が困っていること、不安に思っていること、求めていることを、本人に直接聞いたり表情を読み取って受けとめる努力をしている。		情報を得ることに終えて入居に至っているが、個人と面識を持てるゆとりと時間を要して入居受け入れの取り組みをしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が面会時や電話で困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴くように努力している。		入居前の支援専門員との連携の強化、不安、要求など、直接的に得難いことを活かして信頼に結びつける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」まず必要としている支援見極め、他のサービス利用も含めて対応している。		家族からの相談を受けての入院中のお世話等の対応を行っているが、それに類した対応にも取り組んでいる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問は見学はいつでも受け入れている。その日に出勤している職員が案内できる		入居前に馴染んでおられた支援相談員の協力、家族の支援など活用していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で昔の話や調理法方法を教えて頂いている。		認知症の理解の研修を継続する。症状の変化に添えるだけの知識の取得により関係の維持に努める。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のお話をよく聞き何でも話し合える関係を築いていきたい。家族だけでなく一緒に悩みを共有して支えていけるように面会時は話を聞くようにしている。		家族と共に認知症理解を深められる。共に支える関係を築く。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人について、職員が深く理解していくほど本人との関係がよくなり、落ち着いて生活できている。		本人と会える機会の少ない家族への支援。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員も本人が大切に思っている人を、大切に思い、面会時は一緒に喜び、面会に来られない時には電話をしたりして、連絡を取るようになっている。		家族以外の方にも来所の呼びかけなどができ、訪ね人が多くなるような取り組みに努める。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席の工夫、お手伝いをしていただく時も関わりやすい利用者同士にするなど孤立せず支え合えるよう努めている。		常に変化しながら考慮していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了(死亡)の方のご家族にはお通夜、お葬式に参列させていただく。他の施設に移動された方には、時々訪問している。		その主旨を伝えることで、断ち切らないよう大切にしてい
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	適時、本人や家族の要望を聞きそれに基づいてアセスメント、ケアプランを作成している。要望等を伝えることが困難な場合は、本人の日常生活から希望等読み取り、検討している。		入居者一人ひとりの日々の様子や変化を具体的に記録し、本人本位の検討を重ね実施している。今後も継続に努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や生活環境、またはこれまでのサービス利用の経過等把握するように努めている。いつもと違った様子が見られる時はノートに記録し、職員全体が把握できるようにしている。		経過等把握する中で、症状に合わせながら環境を整え、馴染みの暮らしの継続に努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の経過記録用紙に毎日記録し、いつもと違った様子が見られる時はノートに記録し、職員全体が把握できるようにしている。		常時行なわれているカンファレスノあり方の検討も含め、有する力等、見失われないよう、きめ細かな視点に立てるよう配慮を行なう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月必要な入居者様のカンファレスを行い、介護計画を作成している。		常に新しい視点で取り行われるようなあり方の再検討。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとの計画の見直し、及び退院時心身の状況に応じて計画書の見直しを行なっている。		常に必要とされる見直しを取り行なう方法の模索。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の経過記録に記入し、特別なことがある場合は、毎朝の申し送り時、職員にきちんと伝達している。		定着している取り組みの継続に合わせて、情報の取得、気づきの工夫の徹底に取り組む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は入居としての機能しか持っていない。		支援をしているが活かさきれていない事への検討に取り組む。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を開き、地域の民生委員、自治会等と話し合う機会を設けている。ボランティアにもご協力いただき支援している。		必要性に応じて、それぞれの機関等の協力支援体制作りを具体化する。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じ、訪問歯科、訪問理美容サービスの利用を検討している。		本人の意向を聞き、希望があれば他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合って他のサービスが利用できるように支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター、主催のケアマネ会議に参加し、地域の情報など収集している。		必要に応じて取り組んでいく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	囑託医の対応と入居者様、家族様が他病院受診希望の場合は、紹介状持参してもらい受診していただいている。		支援は十分できている。継続していく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	囑託医と入所前に利用されていた精神科Drと連携している。また、家族より認知症の専門医の希望があれば受診する。		他の入居者との共同生活に支障がでるような症状に至った場合の家族への理解を求める為の具体例などの準備。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関連病院の看護職員と相談しながら健康管理の支援を行っている。		協力医療機関の看護職員との協働が日常的に行なわれている。今後もよりよい関係を築いていく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	関連病院と協力医の病院と入退時に関する情報交換や相談を行い連携している。		御家族との連絡を密にし、相談に努めている。これからもより密接であるよう取り組む。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の意向を家族へ聞いている。また、関連病院と適時相談をしている。		方針を共有した上で、可能な限りで、受け入れ重度化しても終末期に関しても安心して利用してもらう。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	関連病院と相談しながら支援に取り組んでいる。		特に終末期に向けた職員の心の持ち方、ケアのあり方の研修に取り組む。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の居所へ移る際、事前に話し合い、情報提供用紙に記入し、継続したケアができるようにしている。		症状、状況に応じて本人重視の対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄の誘導、失禁への対応などはさりげなく、本人の誇りを傷つけないよう努めている。</p>	<p>プライバシーの確保と共に個人情報の取扱いに関し研修は徹底継続している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に添って決定がなされている。わかる力に合わせ説明の仕方など工夫している。</p>	<p>一人ひとりに働きかけ本人にとっての大切な納得感を重視している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大体のスケジュールはあるが、個々人のペースに合わせて対応している。</p>	<p>お天気の良いこと、寒いこと、暑いことなど知らせながらその日の過ごし方の本人の思いに添っている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>服装に関しては、わかる力に合わせて、選んでいただいている。理美容についてはボランティアの方に切ってもらっている。</p>	<p>希望とは特別に顔なじみ理美容室を得る支援にも取り組みたいと思う。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの力に合わせて味噌汁を作って頂いたり、テーブルを拭いていただいたりしている。時には、近所のスーパーと一緒に買い物に行って、好みの物を買っていただいている。</p>	<p>準備や片付けなど利用者の楽しみや活かせる力の妨げにならないように配慮している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一緒に買い物に行って、好きな物を買っていただき、個別に楽しんでいただいている。</p>	<p>行事に合わせた飲み物や、おやつの提供は楽しみとされている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間をみてトイレ誘導し、できるだけトイレにて排泄していただけるよう支援している。		排泄誘導が習慣化されており、本人も気持ちよく排泄できている。症状、状態により無理地意することのないようしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一回時間帯は決まっているが本人の体調や意向に合わせて、その都度変更している。		毎日入浴したい人もあり、気候に合わせ、夜間入浴するなど柔軟に対応している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中起きていただくよう散歩など行っているが、本人の意向に添って部屋で休んでいただいている。		のんびりとリビングのソファで横になる習慣の方もあり、個々の思いのままに安眠される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出が好きな方はできるだけ外出、読書の好きな方には図書館で借りてきた本を読んでいただくなど、本人の意向に合わせた支援を行なっている。		気晴らしの支援が不足している点に地域への参加の形で取り組んでいく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を失ってしまう方には、本人の了解を得てお預かりしているが、買い物の際には、出来るだけ自分で支払いしていただくよう支援している。		老人会の会費を自分で納めに行くなどお金に触れ、関わる機会を作っていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近所のスーパー、公園、図書館などへ大体外出できるようにしている。		範囲を広く、外出の支援へ取り組む。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に合わせて、できる限り行けるよう支援している。		今以上に機会を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、受けたりできない方には代わりに行き支援している。		支援を継続する。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に訪問できるような雰囲気作りをしている。面会時は自室に自由に過ごしていただけるよう工夫している。		訪問者の意見をもっと多く取り入れられる取り組みをしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての研修を行ない、全ての職員が正しく理解できるように努めている。		正しく理解している事の確認を常に見直し啓発していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をつけておらず、玄関は夜間のみかけるようにしている。		外内以外日中玄関に鍵をかけることにほとんどないようにしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室では自由にくつろいでいただいているがそれ以外の場所では、安全に配慮するよう一人ひとりの職員が心がけている。		見守りを徹底している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の危険につながらないように保管している。		身近に触れてほしいものはできるだけ視界の中に置くように症状の軽い方への配慮をしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	写真入の緊急時持ち出しファイルを作成し、行方不明時など持ち出せるようにしている。また、避難訓練を行ない、火災等に備えている。		研修を重ね、さらに知識の修得に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	休日、夜間にも、緊急に協力医に連絡できる体制にしている。ほぼ全ての職員が救命蘇生法の研修を受けている。		重ねて訓練することができるよう定期的に取り組む。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっている。		地域の人々の協力を得られるよう働きかけを検討する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	医療面では必要に応じ、主治医を交え家族等に説明している。		個人との話し合いだけでなく複数家族により、意見交換の形での理解を求める方法にも取り組んでいき起こった場合のトラブルの対応がスムーズにいくようにしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常の早期発見に努めている。気付いた時はすぐに主治医に報告し、指示を仰いでいる。		早期の状態でも医師の指示を受けられるため速やかに対応できている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を準備する担当を決めており、服薬介助を行なった職員が服薬済みのチェックを行なっている。なるべく全職員が処方等に目を通すようにしている。		確かな情報を医師に伝えることで、適切な処方を得られるよう複数の記憶が残るようにする、
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状態は毎日に記録し、食事の工夫や運動を促している。		身体を動かすことへの工夫が不足しがちなことへの取り組みを行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア促しや介助を行なっている。		清潔が保たれている支援の継続に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を全て記録し、十分な量を摂取できるよう支援している。		栄養バランス、量は管理栄養士の管理するもので提供しており、食べやすく工夫されている状態習慣支援は適切に行なっている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の研修を行ない、手洗いうがいの徹底、食器、まな板の消毒手順など取り決め、実行している。		過敏になりすぎないよう、確実な情報を伝える研修を重ねて行く。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は熱湯消毒を行なっている。食材は毎日新鮮なものを使用している。		毎日の衛生点検表での管理が行なわれており、安全への意識の継続に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、明るい雰囲気作りに努めている。		もう少し工夫ができないか。皆さんが日向ごっこをしておられる時の感じはとても良い。常にそんな感じが保てる工夫に取り組む。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		季節に合わせて行事に取り組んでおり、一年を通して生活の中に季節感がある。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに、ソファなど置き、思い思いの場所で過ごしていただけるようにしている。		テーブル、ソファの配置により、個人に合った空間の提供を行なっており、適度に居場所が得られている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具など持ち込んでいただいている。 (箆笥、仏壇など)		入居時には、使い慣れたもので、できるだけ室内の使用も馴染んだ形でお願している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候の良い時期は、なるべく外の空気を取り入れるようにしている。居室の温度調節は、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		感染防止、健康維持を念頭に室内の空気の入替えは徹底している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造である。壁や廊下に手すりを取り付けている。		本人の機能に合った習慣により移動することができる安全な環境に整っている。段差もなく、予見できる空間である。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に、表札をつけ、それぞれ柄の違うのれんをつけている。		本人の居場所が変わってはいけなの方のテーブル配置は固定である。楽しめるような場合は雰囲気を変えるなど、本人の妨げにならないように支援している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花を植え、利用者に楽しんでいただいている。		リビングから庭が見えては、出たり、入ったり、自由に活動し楽しんでもらっている。洗濯物も、触れることができる場所で干すようにして、何度も乾くのを見に行ったり、お世話をすることを役割としている方もおられる。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

それぞれの利用者や家族の思いに耳を傾け、できるだけその意向に添えるよう日々取り組んでいます。